入選

できないをできるに

千葉県　御宿小学校
６年　輪千瑞季

私は友達とお出かけをすることが大好きです。特に、映画をいっしょに見ることが好きだったので、夏に映画館に行きました。

ポップコーンを買って席に座り、友だちと映画を見ました。映画が終わりポップコーンのごみを捨てているとき、「あっ」という声が聞こえてきました。その声が聞こえた方を向くと、女の子４人が残っていたポップコーンをろうかに落としてしまっていました。その場には私と友達、男性一人しかいませんでした。私は、「ポップコーンを拾うのを手伝おうかな」と思いましたが、知らない人だったので、恥ずかしくて手伝えないでいました。

すると、女の子の後ろにいた男性がポップコーンを拾うのを手伝いに走ってきていました。私は自分が手伝っていれば、男性が手伝わなくてもよかったのにと後悔しました。

その後、学校でも同じような経験をしました。それは、音楽の授業を受けるために男女２列に並んでみんなで音楽室へと向かっている最中でした。ある一人の男の子が、持っていた筆箱を歩いているときに落としてしまいました。男の子は筆箱の中に、授業で使うカードをたくさん詰めていたので、一人で拾うのは大変そうでした。そのとき、後ろに並んでいた一人の男の子が拾うのを手伝っていました。

私は、映画館に行ったときのことを思い出し、勇気を出して近づきました。その男の子は同じクラスの子でしたが、授業が始まる時間まで1、２分くらいしかなかったので、手伝おうか迷いました。でも、映画館でポップコーンを拾うのを手伝っていた人も、急いでいるにも関わらず手伝っていたことを思い出し、「私も」と手伝いました。拾い終わった後すぐに、音楽室へ向かいました。

急いで行ったので、授業に間に合いました。授業が終わると、筆箱を落とした男の子が駆けつけてきて、「さっきは手伝ってくれて、ありがとう。」と言ってくれました。私も「全然大丈夫だよ。また何かあったら、言ってね。」と返しました。

そのとき私は、（手伝ってよかったな。）と思いました。そして、

（映画館のときも、今のようにポップコーンを拾うのを手伝ってあげていれば、お互いいい気分になれていたのではないだろうか。）

と思いました。なので、そのことをクラスの仲のいい友達に相談してみました。友達は、

「できなかったことができるようになったんだから、いいんじゃない。」

と言ってくれました。私はその言葉のおかげで、今は恥ずかしくても勇気を出して困っている人がいたら、助けてあげようと思っています。